



2015 年 出羽庄内国際村

教員のためのコロラドスタディツアー 実施報告書

2015 年 7 月 31 日～8 月 14 日



目 次

教員のためのコロラドスタディツアー

■ ツアーの目的／ツアー期間／アメリカ・コロラド州について	2
■ スタディツアー 日程表	3
■ 参加者による報告	
日向 絵菜さん	5
小野寺 美智子さん	22
■ ツアー参加者名簿	37
■ 同行者より	37

子どもの英語教育を学ぶスタディツアー

● ツアーの目的

出羽庄内国際交流財団では、2007 年より山形県と姉妹県州となっているアメリカ合衆国コロラド州でのコロラドスタディツアーを実施してきました。中学・高校生の参加者を中心としてツアーを重ねてきましたが、英語を母語とする国での語学研修や、アメリカならではの先進的な英語教育に触れる機会が多く、日本での子どもに対する英語教育に活かせるものが多く得られるのではないかと、2014 年より本事業を開始しました。

このプログラムでは、全泊ホームステイ、英語と異文化の専門研修機関であるスプリング・インスティテュート(Spring Institute)での実践的な英語の研修等を行います。また地元の小学校への訪問や、非英語圏からの子どもに対して英語指導を行っている教師との懇談の機会を設け、実際にアメリカで行われている英語の指導方法について学ぶとともに、様々な文化交流を通して英語の実践力と異なる文化への柔軟な対応力を養うことを目的としています。

● ツアー期間

2015 年 7 月 31 日～8 月 14 日 15 日間

● アメリカ合衆国 コロラド州について

- ・面積 : 26 万 9618 km² (日本の 4 分の 3)
- ・人口 : 約 5,180,000 人
- ・州都 : デンバー市
- ・気候 : 山岳、高原、砂漠と様々な



地形があり、気候も複雑なものになっている。年間を通じて好天の日が多く、デンバーの年間晴天日数は約 300 日とされている。

・日本との関係：

1886 年に松平忠厚が日本人として初めてコロラドの地を踏んで以来、日本人移民がデンバーにも入るようになり、炭鉱夫、鉄道工夫として出稼ぎにきた日本人がかなり居住していた。第二次世界大戦当時、西海岸に住む日系人 12 万人が内陸部に強制移住させられたが、当時のコロラド州知事ラルフ・カー氏は、迫害された日系人を温かく迎え入れた。現在山形県とコロラド州は姉妹県となっている。

コロラド州在住日系人 約 19,000 人

在留邦人 約 4,186 人 (2014 年 10 月)

● スタディツアー 日程表

・期間 2015 年 7 月 31 日（金）～8 月 14 日（金） 15 日間

・日程

月 日	時 間	訪問先など	内 容 など
7/31	17:00	成田空港→ コロラド・デンバー	日本から直行便で移動
8/1	終日	イザベル湖へのハイキング	片道 2 時間のコースで、イザベル湖 へ
8/2	10:00～14:00	コロラド州日系人会ピクニ ックに参加	・200 食分の芋煮（味噌・醤油）を 作ってふるまう。 ・花笠踊りを披露
8/3	09:30～	Class-orientation getting settle in Denver	英語授業（中高生ツアーと合同）
	13:00～	Spring Institute - English Class	英語授業 授業後、ダウンタウンの書店訪問
8/4	09:00～	Spring Institute - English Class	英語授業
	13:30～	Montessori School of Denver@ Spring	Melissa Patkos 先生による、 モンテッソーリの学校での言語指導 の紹介
8/5	11:00～	在デンバー日本国総領事館 訪問	伊藤真総領事へ表敬訪問。コロラド の現状や日本との関係などについて お話しをうかがった。（中高生ツアー と合同）
	14:00～	Spring Institute - English Class	英語授業（中高生ツアーと合同）
8/6	09:30～	子どものサマーキャンプ訪 問	夏休み期間中にアメリカで行われる 「サマーキャンプ」を訪問。6 月に 来鶴したコロラド訪問団の指導者が 主催する、縫い物活動のサマーキャ ンプを訪れた。
	13:00～	Spring Institute - English Class	英語授業
8/7	09:00～	Spring Institute -	英語授業（中高生ツアーと合同）

		English Class	
	13:00～	Spring Institute - English Class	英語授業
8/8、9	終日	ホストファミリーデー	ホストファミリーと一緒に過ごす
8/10	09:00～	English Class	英語授業
	11:00～	Teacher Resources store	学用品、教材等の販売店
	13:30～	公立小学校訪問	Linda 先生による ESL 教授法の紹介。63の違う言語を母語とする児童が在学する学校で、どのように英語の指導が行われているかを学んだ。
8/11	08:30～	デンバー子ども博物館	博物館職員より施設案内のツアーをしていただいた。
	11:00～	デンバー自然科学博物館	博物館を見学
	14:00～	English Class	英語授業
8/12	09:00～	幼稚園見学	アルバーダ地域の幼稚園を訪問。活動にも参加し、日本の歌の紹介等をした。
	13:00～	English Class 修了式	英語授業 スプリング・インスティテュートによる修了証の授与
8/13	12:40	デンバー→成田	直行便で成田へ移動
8/14	20:15	羽田→庄内	最終便で鶴岡着



Cororado study tour H.27.7.31-8.12 Hinata Ena



H27.7.31 (Fri)

ツアー1日目。一般のツアーの子ども達と一緒に庄内空港を出発した。直前にホストファミリーのことや内容のことが決まったこともあり、ちょっとしたミステリーツアー感覚。(Janからは前日に改訂版の日程が届いた!) なんとかかなる精神で準備もお土産もぎりぎりだった。男子高校生が喜ぶかなあと考えた日本のお菓子を炭酸飲料、みんなで楽しめたらと習字道具に折り紙。たくさんのお土産を詰めた結果、スーツケースはパンパンで、空港では「heavy」の印をつけられてしまった。

デンバー空港行きの飛行機は遅れていて、成田を発ったのが予定より1時間半遅れの18:30。10時間強のフライトを経てデンバー空港に到着したのが現地時間7/31の14:15(日本だと8/1の5:15)。なんと出発した時間よりも戻っているという不思議。長い1日だ。

私が今回お世話になったホストファミリーはお父さんのChris、お母さんのNaomi、3人姉弟のMaya、Stefanie(Stefie)、Evan、それからペットのLuLuとBrunoの7人家族(ペットも家族の一員として扱っていた)。すごく温かい家庭で、家族のように接していただいた。空港ではChrisとMayaが迎えに来てくれた。Mayaは22歳なのに大人っぽい。Chrisは見た目がとても若く、年齢不詳である(後で年齢を知りびっくりすることになる)。

家につくとLuLuとBrunoが歓迎してくれた。二人ともとても人懐っこい。仕事から帰ってきたNaomiとStefie、Evanも加わり夕食。料理が趣味というChrisの料理はとても美味しかった。日本から持ってきたお土産を渡すととても喜んでくれた。そして驚いたことに私にもプレゼントがあった。それは、コロラドの国旗が描いてあるドリンクボトルと、州の木アスペンを模った金でできたしおりだった。早速使うと喜んでくれた。夕食後近くの湖に散歩に行く。野うさぎを何匹も見え。Brunoはいつでも野うさぎを捕まえようとするらしい。散歩後に「アイス食べたくない?」と聞かれ、家族みんなでアイスショップへ。車はEvanが運転。17歳(18歳?)なのにすばらしい。Sweet Cowというアイスショップは人気店のようですごく混んでいて。酪農が盛んだからか乳製品がとても美味しい。みんなから一口ずつもらいいろいろな味のアイスを楽しみ、帰ったのが22時。とても長い、でも充実した1日だった。



H27.8.1 (Sat)

1) 訪問先：ロッキー山脈（イザベル湖）

2) 活動：ロッキー山脈自然観察・習字・Cancer Walk 見学

2 日目。私の部屋からリビングに向かうと（私は滞在中地下を自由に使わせてもらっていた）Chris がもう起きていた。「朝ご飯何食べる？」と聞いてくれ、色々準備もしてくれた。事前に読んでいた本では「アメリカでは朝ごはんは自分で好きなものを勝手に食べるスタイルで冷蔵庫も自由に開けていい」とあったので、そんなものかと思っていたのだが、この家ではそうではなかったようだ。Chris はいつでも丁寧に聞いてくれた。

現地でのコーディネーターのタカさん（村治孝浩さん）と子ども達が家まで迎えに来てくれ、イザベル湖へ向かった。登山道までの道が渋滞していて車が全然進まなかった。しかしその分ツアーの子ども達と話をしたり、ちょっと車から降りて近くの植物を観察したりと楽しい時間を過ごした。

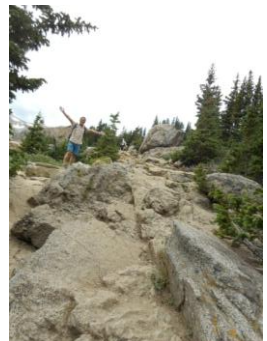
イザベル湖までの道のりはなかなか険しく、金峰登山くらいのイメージ。ハイキングと聞いていたのでそのイメージの差にびっくりした。至る所に自然の植物が生え（州花のコロンバインも発見）、野生のリスも見つけた。Colorado の名前の由来にもなっている red color の地層（タカさんの話だと超大陸パンゲアのあったころの地層だとか！）や「テーブルメッサ」「ピュート」と呼ばれる自然が生み出した独特の形をした岩などワクワクするものがたくさんあった。

ハイキングスタートから1時間ほどで目的地のイザベル湖に到着。昨年と比べると湖の水は少なかったそう。無事到着できて嬉しかった。湖沿いの砂浜と岩場に座って昼食。「trail mix」という登山用携帯食（レーズン、ナッツ、チョコレートなどを塩であえたようなもの）をいただく。最初はその組み合わせに驚いたけれど美味しかった（日本でいう塩あめみたいなもの？）。

家へ帰って Naomi と Maya と一緒に習字をする。当て字で「直美」「真矢」と漢字でお手本をかき、2 人にもかいてもらう。初めてにしてはなかなか上手！！楽しんでもらえて良かった。

夜は Naomi の妹 Dia と Family friend（家族ぐるみの友達？）の Gail が来て一緒に夕食。アメリカでは Guest が来るのが一般的なのかしら。ちなみに私が滞在した 2 週間弱、ほとんど毎日誰かしらが遊びに来て（姉弟の友達とも仲良く談笑しているし）、一緒に夕食を食べていった。とてもすてき。

夕食後、家の近くの湖に散歩に行く。前日とは違い、人がたくさんいる。話をきくと、この日は年に一度の「Cancer walk」の日との事。癌患者の家族や、癌で身内を亡くした家族が中心となり、池の周りに立てられた提灯の周りを歩くのだそう（弔いや活動を広めるため？）。日本でいう「灯籠流し」のようなものだろうか。静かな湖の周りが灯籠でまんやり明るく照らされてとても幻想的な雰囲気だった。家へ帰ると 23 時。日の入りが遅いからか（20 時頃やっと暗くなる）あまり遅い感じがしないのだが、この日も遅くまでいろいろなことをした 1 日だった。



H278.2 (Sun)

1) 訪問先: Berkley Park

2) 活動: 日系人会ピクニック・スケートリンク見学・ゲームセンター・キャンディーストア・POST

朝起きるとChrisが外で新聞を読んでいた。私も外に出て少し近くを探検する。道の脇に魚が描いてある謎の側溝があったので聞いてみると詳しく説明してくれた。この側溝が川につながっているから薬品を流してはいけないという印らしい。近くには様々な看板や標識があってとても興味深かった。



家に戻り、朝ごはんをどうするかについて聞かれたので、自分で調理させてもらうことにした。アメリカの目玉焼きは両側を焼くのが一般的かと思って挑戦したのだが、Chrisの家では日本と同じSunny-side upらしい。また、朝もcoffeeではなくtea。しかもご飯だって週に2~3日は食べる。思っていたアメリカのイメージと違ってびっくりした。

日系人会ピクニックの会場まではNaomiが送ってくれた。途中ガソリンスタンドに寄ったのだが、ガソリンスタンドの隣には必ずといっていいほどお店が隣接しているそう（その多くはセブンイレブン。24時間営業ではない）。やはり車社会だからだろうか。行く途中でGeeseを見つける。たくさんのときはGooseではないらしい。急に英語の勉強が始まっておもしろかった（PigeonはPigeons、難しい…）。

会場の公園は広く、集合場所までもまた一苦労だった。はじめに子ども達と一緒に煮作りをする。女の子だけでなく、男の子もてきぱきと調理していてすばらしかった。材料は全てアメリカのスーパーでそろえたとのことだが、醤油が薄いというか甘いというか…。味は同じではないのだなあと感じた。作りたいも煮は大人気で内陸風も庄内風もすぐに売り切れてしまった。結局内陸風を2鍋、庄内風を3鍋作り、お客さんにふるまった。



また、ステージで花笠を披露した。練習では1セットを数回しか練習していなかったのだが、本番の曲がとても長く（7セット？8セット？）終わりが見えなくてみんな苦笑いだった。ただ、やっているうちに上達していくのを感じた。残念だったことは花笠をやっている間に私のホストファミリーが来れなかったこと。あとでからEvanとMayaにはおびを着てもらった。とっても似合っていた。Evanはちょっと嫌そう？

ピクニックからの帰りにスケートリンクを見せてもらう。Chrisによるとここで

Evanはアイスホッケーの練習をしているらしい。夏なのにどうやって練習するのかを尋ねると、中に連れて行ってくれた。中には大きな3つのスケートリンクがあり、フィギュアスケートやアイスホッケーの練習をしていた。床に大きな冷凍装置があり、夏でも氷を作っているらしい。コロラドは冬でも雪が降らないことが多いため、スケートリンクも屋内にあるのが一般的らしい。



小真木原のスケートリンクは夏の間はテニスコートで、冬の寒い間だけ屋外スケートリンクになるのだと話した所、驚いていた。また、帰りがけの道にある大きなお店についてもいろいろ教えてもらった。



アメリカの映画館は24時間営業しているということや日本というマンションはすべてアパートメントということ（マンションに住んでいるなんていうとかなりの大金持ちだと思われるらしい）などなど。物理的な違いだけでなく言葉や印象の違いがとても面白かった。

家に一度帰った後、EvanとMayaと一緒にゲームセンターに行く。かなりレトロなお店だった。昔の日本のゲームセンターはこんな感じだったのではないかしら。ピンボールやカーレース、サッカーゲームにエアホッケー。やり方を教えてもらいながら一緒に遊ぶ。言葉が違っていても楽しいとか悔しいとか（Evanはかなりオウンゴールをしていた）伝わってくるんだなあと思った。遊んだ後は歩いて近くのキャンディーショップへ。キャンディーだけでなくチョコレートやおもちやもいっぱいあった。駄菓子屋みたいな感じ。ポッキーやチョコボールも置いてあったけれど3倍位の値段…。



帰ってからお土産に持ってきた「ねるねるねるね」を一緒に作る。作る工程がおもしろらしく、Evanが喜んでいました。しかし味はあまりお気に召さなかったようだ。



夕ご飯お近くのお店に食べに行く。そのPOSTというお店はアメリカ南部の料理を出す所で、そのお店でビールを作っているらしい。Chrisがビールの飲み比べを頼んでくれたのだが、成人の証明が必要らしい。私もパスポートを家においてきていたので、苦しい紛れに日本の運転免許証を出したのだが西暦が書いてない！学生証に西暦があり、なんとかあったのだが家族は大笑いさせてしまった。みんなのDriver's licenseを見せてもらおうと日本のものとは違いペラペラでなんか不思議な感じがした。また一つ文化の違いを感じた。



H278.3 (Mon)

1) 訪問先: Spring Institute・the 16th street

2) 活動: English class・本屋・テレビゲーム・Chris's lecture

この日からようやく英語の授業が始まったのだが、授業が始まる前からすでにかなりのことを学んだ気がする。私のホストファミリーは教えるのが上手。午前中は子ども達と一緒に、午後は私と美智子先生、幸さんの3人での授業。



午前中の授業は自己紹介と許可を得る方法についてだった。先生の Jan は聞きとりやすいスピードで、やさしい言葉を使いながら説明をしてくれたのでとてもわかりやすかった。子ども達も積極的に発言したり質問したりしていてすばらしかった。私が中学生の時、こんなに理解できて

いただろうか。「ホストファミリーに何か許可を得ること」また、できる人は「英語で日記を書くこと」が宿題として出されたのだが、かなり大変だった。ドリル形式では考える時間があるので正しく使える「Could」や「May」も、実際にその場で、しかも瞬間的にあてはまるものを考えて使うことができない。勢いで言ってみるものの主語と述語が変だったり前置詞が分からなかったり。とりあえず使いながら慣れていこうと頑張った。午後の授業が終わった後、迎えまでの時間 Denver の中心街、16 番街モールに向かう。お土産ショップと本屋に行ったのだがおもしろい商品がいっぱいで目移りしてしまった。

家へ帰ると Evan が友達のエリックとテレビゲームをしていた。楽しそうだったので許可を得て、仲間に入れてもらった。エリックも以前1度日本に来たことがあるそうで、日本語の知っている単語で話しかけてくれた。Evan もゲームで勝って楽しくなったのか、「イチバン!!」と叫んでいた。私は「サンバン」。残念。夕ご飯は Chris と Naomi が作ってくれた Tacos だった。この時初めて Naomi がキッチンに立っている姿を見る。日本とは逆だという話をする。Naomi は、「料理は Chris の趣味だからいいの、好きな方がやればいいでしょう。」と言っていた。Naomi の両親の出身がメキシコだったので常在中はメキシカン料理をたくさん作ってもらった（主に Chris に）。「Chris が作る料理の味は私直伝だから美味しいわよ。」と言っていた Naomi。好きなこと、できることをお互いにやる（そしていつもお礼を欠かさない!）



すてきな夫婦だなと思った。

食後、台所の片づけを申し出てみた。Chris がやりかたを教えてくれ、食器洗浄機を使ってみた。アメリカではお皿はその都度洗わず、1日の終わりにまとめて洗うのが一般的らしい。ちょっとしたことなのににお礼を言われて嬉しかった。

この日の Chris の講義はアメリカンフットボールについてだった。先日質問したことを覚えてくれていたらしい。ビデオを見ながらルールや楽しみ方を教えてもらった。



H278.4 (Tue)

1) 訪問先: Spring Institute・Civic Center Park・Boulder

2) 活動: English class・Food Truck・バス乗車・Boulder 観光・習字

この日ははじめに6日と12日の学校訪問での内容について相談をした。日本の歌と習字、遊びをすることに決定。しかし、どのような子がいるのか実態は行ってみないとわからないとのこと。ドキドキである。

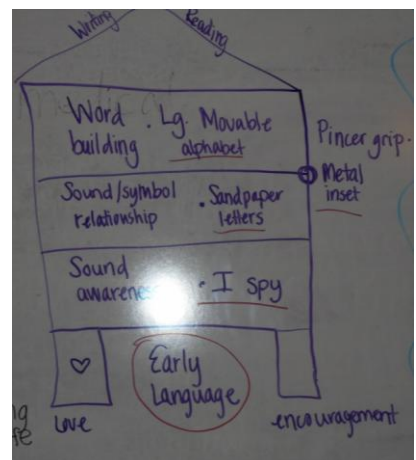
授業はJan との Conversation から始まり、プリントで現在進行形、過去進行形、音節などの練習を行う。特に音節は普段意識しないので難しかったが、とても大事な内容とのこと。指で数える方法を聞き、指折り数えながら練習をした。

お昼は近くの公園へ。火曜と木曜に Food Truck とよばれる移動販売車が公園に集まってくるのだという。中にお消防車の Food Truck もありおもしろかった。私は Colorado 風の wrap (トルティーヤのような?) と super fruits 味の飲み物を注文した。中からはキヌアとよばれる穀物がぎっしり。おいしかった!

午後は Montessori School から Melissa 先生がきて実際の授業内容について講義をしてくださった。特に興味深かったのは、英語学習を一つの家として捉える考え方。最も土台にあるのは愛情と励まし。次は音への気づき、音と文字との接続、文字…と続いていく。考え方自体は日本語と共通する点が多いと感じた。また、日本と同様に「metal inset」と呼ばれる学習をするために身につけておかねばならない事柄(鉛筆の持ち方、はさみや定規などの道具の使い方等)を学習における一つの柱として大事にしていたことも興味深かった。

授業後おバスに乗って Boulder という街へ。初めてのバスということで Naomi が大変心配していたのだが(迎えにくるかバスを使うか聞かれたので)バスを使うと答えてみた。Naomi としては予想外の答えだったらしい)、挑戦してみたら案外スムーズに乗ることができた。Boulder には Stefie と友達の Adri が迎えに来てくれた。家がある Lafayette に帰る途中、Maya とその友達の Zoe、Patrick も同乗し、楽しいドライブになった。家には Daia とその息子 Sidhey も来ていて、結局その日は総勢 11 名での夕食だった。食後はみんなで習字をして楽しんだ。

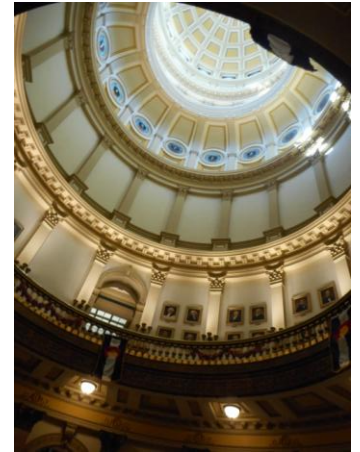
「造伊」「鳩里工」「史努二」などなど当て字をしてあげると嬉しそうだった。良かった。



H27.8.5 (Wed)

- 1) 訪問先: The Capitol・在デンバー日本国総領事館・Spring Institute・Adams farm・
- 2) 活動: The Capitol 見学・在デンバー日本国総領事館訪問・
English class・County fair・Chris' s lecture

総領事館訪問まで時間があつたので、Spring Institute の近くにある The Capitol へ。ドーム型の建物の中は美しい装飾が施され、歴代大統領の肖像画や議員の写真が飾られていた。議場は工事中のようだった。地下には特別な図書館があり、学校に関する法律やこれまでの歴史についての本や文書が収められていた。屋根裏をそのまま利用した資料館もあり、州の歴史や人々の生活について学習することのできるスペースもあった。



子ども達のグループと合流した後、在デンバー日本国総領事館へ。かなり厳重な警備で、他国の人もパスポートの提示が必要とのこと。なんだか不思議。

伊藤総領事さんから、総領事としての仕事について説明をしていただきました。Colorado で生活をする日本の方々の支援だけでなく、日本との文化的・経済的交流のためにご尽力いただいていること、日本側の代表としてメッセージを伝えていることなどを知り、そのおかげでこのような国際交流活動を安全に行うことができるのだと感じた。

午後からの授業では子ども達と一緒に要求の仕方について学習した。相手にしてほしいこと、自分がしたいことをわけて表現することが難しかった。日本語だと主語は省略可能なのに…。言語の違いを感じた。

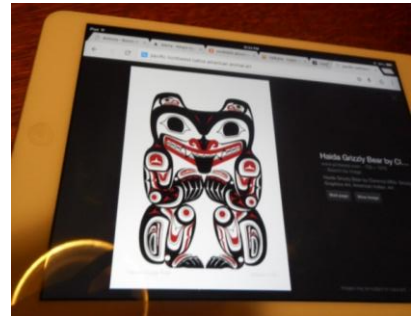


授業の後は美智子先生のホストファミリーの Phil、Alejandra、Nic と一緒に Adams County で行われているフェアへ。動物の品評会だけでなく、移動式の遊園地にもたくさんの屋台など楽しいものがたくさんあった。

家へ帰ると Stefie と Evan がお菓子作りをしていた。私のためにクッキーとワッフルを作ってくれるらしい。ワッフルは次の日の朝に食べたのだが、どちらも美味しかった。



今日のChrisによる講義はアメリカの歴史とNative Americanについてだった。County Fairでの話をしたことから、その歴史がほとんどアメリカの歴史と同じくらい古いものだという事になり、先住民の話にまで広がっていった。途中NaomiがやってきてNative American達が冠髻葬祭で大事にしているというturquoiseの装飾品をもってきてみせてくれた。Naomiのお母さんから引き継がれたもので、嫁入り道具として引き継いでいくものだとのこと。せっかくだから…と付けさせてもらったのだかなんとか恥ずかしい。また、普段使っているカップのマーク（タヌキにしか見えないがクマらしい）も先住民の使っている道具の模倣だということや、先住民の部族の名前がつけられている道路（Alejandraの家近くにZuni st.がある）があることなどを教えてもらった。難しい単語や用語などはその都度iPadで検索してくれたので大変楽しく聞くことができた。



H27.8.6 (Thu)

1) 訪問先: Jo Anne's camp 見学・Spring Institute・Denver 観光・Grizzly rose

2) 活動内容: Jo Anne's camp 見学・English class・Court・Library・line dancing

Joanne という方が主催している summer camp に子ども達の活動を見学に行く。教会のような建物を会場に、先生の Joanne、6 歳～13 歳位の女の子 12 人とボランティアで少し年上の女の子 2 人がミシンを使っての裁縫や編み物をしていた。支援はあったが、6 歳の子ども上手にミシンを使っていて驚いた。休憩時間を使って日本の紹介を行う。はじめにお土産のからからせんべいを渡す。そのあと「幸せなら手をたたこう」を歌う。この曲はアメリカの Birthday song らしい。この日に Melina という子が 6 歳の誕生日ということもあり（日にちと年齢が一緒になる誕生日を Golden Birthday というらしい。）ちょうどよいタイミングだった。その後、家から借りてきた習字道具で子ども達の名前の 1 文字を漢字に書いてあげた。とても喜んでくれたので嬉しかった。日本に興味のある子たちだったからか、習字をしたことがあるという子も何人もいたのが驚きだった。



午後からの学習では County fair の話題になり、羊や牛、馬の呼び方はオスメスや大人子どもで呼び方が変わることを教わった。特に牛は大人の牛の肉と子どもの牛の肉も名前が違っていたのでかなりややこしかった。また、今回からプリント学習に加えて、カードを使った Conversation の学習が効わった。トランプのようなカードにお題が書いてあり、そのことについてお互いに意見を聞き合うという内容だったのだが、話す以前に問われている内容に難しいものがあり、自分の信念を持つことや普段から様々なことについて考えておくことの重要性を感じた。

授業後、美智子先生と幸さんは以前日本にいらしたところのある ALT の先生と会うということだったので、迎えまでの間 Denver 探検をすることにした。ずっと気になっていたアメリカの裁判所に行ってみた。まずは Denver Court House へ（日本でいう地方裁判所？）。見学できるか聞いてみた所あっさりどうぞと言われた。しかし入口では厳重な荷物チェックが行われた。残念ながらその日の裁判は全て終わっていたのだが、時間さえ合えば傍聴も可能だったとのこと。



近くに Colorado Courts（高等裁判所？）もあったので行ってみると見学可能だった。学習館や図書館もあり、裁判所やアメリカの制度について学ぶこともできるようだった。映像プログラムは子供向けだったのかとてもわかりやすかった。



Denver Public Library にも行ってみた。ジャンルごとに分けられた本はコンピュータで管理されているようだった。

日本に比べるとDVDやCDなどの所有数が多く、マンガも人気があるのか、2階フロアの3分の1を占めていた。マンガのほとんどが日本のものの翻訳版だったのが驚きだった。

家へ帰った後、MayaとPatrickと一緒にLine dancingに行く。2〜3日前、Mayaに「ラインダンスの教室に行くから一緒に行かない？」と誘われていたためである。私のイメージは宝塚でやるようなダンスの教室だったのだが、行ってみると全然違ってびっくりした。アメリカのline dancingは、カウボーイの格好をして生バンドの演奏に合わせておどるというものだった。先生もいるのだけれど自分でアレンジしておどっている人もいればお酒を飲みながら見ているだけという人もいた。ダンスホールとバーが一緒になったような感じの場所だった。カントリーミュージックがとてもかっこよくて、歌詞やリズムに合わせておどるのもとても楽しかった。



H27.8.7 (Fri)

1) 訪問先: Spring Institute・Denver 観光

2) 活動: English class・Museum・Chris's lecture

この日はSpring Instituteに隣接している教会の開放日ということで、子ども達と一緒に見学に行く。普段礼拝に使われているのだろう大きなホールやピアノ、オルガンがあった。子ども達のグループで一緒に来ていた響くんがとても上手に「旅立ちの日に」の伴奏を始め、みんなで大合唱が始まる。子ども達と一緒に授業をするのはこの日が最後。なんかかしんみりとした気持ちになる。とてもすてきな方々だったな。授業では以前話に出た、Licorice というお菓子を Jan にいただく。好きな人はものすごく好きだけど嫌いな人はものすごく嫌いというこのお菓子、全員がダメだったようです。後味がひどい…。



また、特別授業として、Native American の専門家である Gaye の講義を受ける。専門用語や部族の名前など聞きなれない単語で理解が難しかったのだが、以前 Chris と Naomi に教えてもらったことと重なる部分もあり、楽しく聞くことができた。特に部族によって思想だったり生活習慣だったりが大きく異なることがおもしろかった。

歌や踊り、楽器や装飾品などに思想を含め、大人から子どもへ代々受け継いでいくことで独自の共同体を形成してきたのだなと興味深く聞いていた。

授業の後は Museum と Bookstore 巡りをする。特に History Museum では、時代ごとにブースが分かれていて歴史を学ぶことができ楽しかった。

夜は地理について Chris に教えてもらった。水質汚染事故のニュースから今回の講義が始まったのだが、古い Atlas を使いながら事故のおこった場所、川やロッキー山脈、Great Plains について話が広がっていった。地形も Native American の移動に大きく関わっているらしく、氷河時代の地形についても教えてもらった。Chris の仕事は engineer だそうだがなんでこんなにいろいろ知っているのだろう。たくさん教えてもらったことに対してお礼を言うと、「All my pleasure!」と言。かっこいい!



H27.8.8 (Sat)

1) 訪問先: Creek・Estes Park・Boulder

2) 活動: 散歩・乗馬・Boulder 観光

いつも通りの時間で起きるとNaomiに「BrunoとLuLuの散歩に行かない?」と誘われる。いつもと同じように家の周りかと思っていたら車で近くのCreekまで行くとのこと。BrunoもLuLuも嬉しいようで自分で車に飛び乗って準備万端。

10分くらいでCreekに到着。Brunoは上手に泳いで魚やカエルを捕まえようとし、LuLuはNaomiに投げてもらった枝を上手にキャッチして楽しんでた。

Creekを挟んで向こう側にたくさんのプラスチックボックスが見えた。気になったので聞いてみると、何と中で蜂を飼育しているらしい。確かにくまのプーさんのシールは貼ってあるけれども…。おもしろい発見だった。

一度家へ帰り、乗馬をするためにEstes Parkに向かう。家からは1時間程車を走らせた所にある、ロッキーマウンテンの中にできた街のような感じだった。お店などの施設も充実しており、民家もたくさんあった。

私は最初、柵の中で馬に乗り中を1〜2周するものだとばかり思っていたのだがさすがアメリカ、スケールが大きい。馬に乗り、向かった先は山の中。乗馬コースはロッキーマウンテンを馬で登って下って…全部で2時間弱の長旅だった。はじめは乗っていた馬とうまくコミュニケーションを取れなかったのだが、だんだん慣れてきて周りを見る余裕も出てきた。途中、カウボーイブーツの墓場や、樹齢何百年という木、通る人が記念にガムを貼り付けていくのだという木を通る。おもしろい。

スタートが12時過ぎだったので結局お昼は3時くらいになってしまった。Chrisが作ってくれたお昼ご飯を持って近くの湖へ。

多くの親子連れに混じって、私たちもご飯を食いつつ芝生や湖でゆったりとした時間を過ごした。

夜は家族みんなでBoulderへ。休日の夜、Pearl Street Mallという通りにはたくさんのパフォーマーが集まっているらしい。銅像となりきっている人に大道芸人に記憶力が覆れている人などなど。夜の10時頃だということに観客もたくさんだったので驚いた。



H27.8.9 (Sun)

1) 訪問先: Boulder・Costco

2) 活動内容: camper・弓道・ハイキング・買い物

ずっと気になっていたキャンピングカーを開けてもらえることになった。ハンドルを回すとスムーズに車が開いて、ものの5分で完成。中には調理スペースもベッドもあってかなり快適。Mayaたちが小さい頃はみんなでキャンプに行っていたんだそう。アメリカでは珍しくないものだを教えてもらった。秘密基地みたいで楽しい。

10時からBoulderにある弓道場の予約をしてもらっていたので見学に行く。いきなりだし道具も持って行っていなかったのですが、なんと弓をひいてもいいですよとのこと。使っている道具は日本から持ってきたものということもあり、使い方は同じ。私のやり方と流儀が違っていたのだから向こうの弓道もかっこよかった。どちらかという精神修行に重きをおいているようで、スタートの瞑想が20分程。これが大変だった。

先生のAlex、Akiが中心となってBoulderでの弓道について教えてくれた。

そのままBoulderでランチを食べ、私とNaomi、Maya、Patrick、Brunoはハイキングに向かう。市街地からすぐの所から歩いてロッキー山脈のふもとまで行けるとのこと。やはりハイキングとはいうものの登山だった。途中野生のサボテンをたくさん見つける。暑くて乾燥しているからかいきたところに発生していた。1時間半位で到着。ロッキー山脈をさわっていることに感動した。ほとんど直角だということに、さらにここを登っていく人もいらしい。驚きである。

帰りにCostcoに寄る。近々山梨にもできるとのことだが、私にとっては初めて。全てのものが大きくて多くて、本当に家庭のようなかとびっくりするようなものばかり。たくさんものをまとめて売っているから安いのだとNaomiは教えてくれたが、お土産にするには多すぎたので今回は買うのを断念した。残念。



H27.8.10 (Mon)

1) 訪問先: Spring Institute・Teacher Resources Store・Linda's School・Botanical Garden

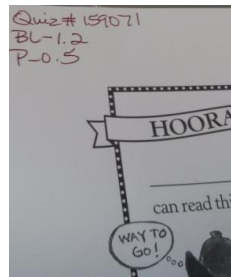
2) 活動: English class・買い物・Linda's School 見学・Botanical Garden 見学

朝 Spring Institute で英語の勉強をした後、Jan の車で本屋へ。一般の本も売っているが、現場の先生が使う教材も多く置いてあるらしい。英語圏の人が日本語を勉強する時に使う本もあり、おもしろかった。かなりレトロなイラストだった。子ども達用の本と、grammar を勉強するための本などを購入。買い物をするたびに思うのだけれど、アメリカの店員さんはとても親しみやすい。会計の最中もずっと話しかけてきてくれた。

午後からは Linda という先生の学校を訪問する。多くの refugee が通う学校ということで、63 カ国もの異なる言語を話す子ども達が在籍しているらしい。

私たちが訪問した日はちょうど9月からの新学期に向けた入学説明会の日だったので国を越え、様々な子ども達とその家族が集まっていた。

おもしろいと思ったのが、言語やレベルが違う子ども達に合わせ、reading のテストはそれぞれ問題や行うタイミングが違うということ。教室



にはレベル別に分けた本がたくさんあり、その本を3回読んだらテストを受けることができるという。本に書いてある「Quiz」の番号をコンピュータに入力するとテストが始まり、採点も全てコンピュータが行うとのこと。先生はこれを基にして reading の成績をつける。成績は1から4まであり、4は「above grade」とよばれ、学年以上の力が付いているということらしい。また、学年のレベルに達していない子どもたちは「newcomer class」とよばれる少人数の学級で学習をするらしい。refugee が多いこの学校ならではの取り組みなのかなと感じた。

学校訪問の後には Jan に送ってもらい Botanical Garden へ。屋内ブースと屋外ブースがあり、様々な種類の植物が展示されていた。ちょうど15年に1度花が咲くという植物が展示されていたのだが、16日頃咲くらしい。残念。ただ、わざわざ私たちにその植物の存在を教えに来てくれた女性がいいたので（あまりに広かったため、はじめ、特別展示に気づかず通り過ぎてしまっていた）そのおかげでつぼみは見る事ができた。なんて親切な方だろう。日本風庭園もあり、ちょっと懐かしい気持ちになった。



H27.8.11 (Tue)

1) 訪問先: Children's Museum・Natural Historic Museum・Spring Institute・Boulder
2) 活動: Children's Museum 見学・Natural Historic Museum 見学・English class・pool

この日は午前中2つのMuseumへ。はじめに行ったChildren's Museumは大人だけでは入ることのできない所だったのだが、特別に見学をさせてもらった。様々なブースに分かれて体験活動ができるようになっていた。消防士体験、歯科医、獣医体験、廃材を使ったリサイクル工作体験やシャボン玉、ボールを使った大掛かりなアトラクション。日本でいうキッズニアのようなものだろうか。開館すぐの訪問にも関わらずたくさんの親子連れが楽しんでいた。



次にNatural Historic Museumへ。生き物や鉱物、歴史文化等様々なテーマごとの展示室がいくつもあった。1時間ほどの時間だったので、興味があった天体、鉱物、Native Americanの展示を中心に見学した。体験できる展示もあり、短い時間ではあったが楽しむことができた。特にNative Americanは部族ごとに展示がまとめてあり、居住の仕方から服装、生活様式まで比べながら見ていくことができ楽しかった。



Spring Instituteに戻り、カードを使っでの conversation とプリントを使って学習を行う。私たちは、毎日 journal という形で日々の報告を行っていたのだが、Janはそこで使った文法表現や間違った表現に合わせてプリントを用意してくれた。レベルに合わせて学習でとてもありがたかった。夜はMayaとZoe、Patrickにビリヤード (pool というらしい) を教えてもらう。思った所に球がとばず難しかった。隣にあったping-pongはなかなかいい勝負ができたのでよかった。



H27.8.12 (Wed)

1) 訪問先: Pre-School・Spring Institute・Boulder

2) 活動内容: Pre-School 見学・English class

Maya に送ってもらい Pre-School へ。入口は普通の家のようだったが、中は広いスペースで生後6カ月から小学校までの子（小学校低学年の子も放課後に来ることがあるらしい。学童のような感じだろうか）が活動をしている。年齢ごとにブースが分かれていて、それぞれの年齢に対応した活動を行っているとのこと。私たちが訪問した時はちょうど9月からの新学期に移行する時期だったこともあり、隣接するクラスで似たような活動をしたり、サブの先生が2つのクラスを移動しながら子ども達の様子を観察したりというようにクラスごとでの連携の様子が見られた。この時はシェービングクリームと絵の具を机に広げ、手でかき混ぜて色の混ざる様子を楽しんだり、指で絵や自分の名前をかくしたりする活動を行っていた。先生の説明→活動→片付けという流れを子ども達がしっかり理解していたのがすばらしかった。活動も、全体で行う活動、自分たちで好きな遊びを行う時間が区切られているのも子ども達にとっては良いように感じた。飽きないように様々な活動に取り組むための工夫がされているようだった。



Spring Institute に戻り、最後の授業を行う。日本に戻っても勉強ができるようにと、Jan は便利なアプリを教えてくれ、好きなものを持って行きたいとテキストをくれた（お勧めのものをいくつかすぎた結果、スーツケースは重量オーバーになり、手荷物で持っていくことになる。幸さんからも持っていさだく、すみません…）。

2 週間は本当にあっという間だったけれど Jan をはじめとして様々な方々のおかげでとても実りのあるものになった。

最終日ということで、Maya と Stefie が夜景を見に行こうと誘ってくれた。Adri と Patrick、Zoe も一緒だった。山の上から景色を眺めていたので、下にはBoulder の夜景、上にはきれいな星空が見えてとてもきれいだった。流れ星がたくさん流れていたのでみんなで指差しながら流れ星を探した。

H27.8.13 (Sat)

朝、医者に行くというNaomi とお別れをし、その後家族みんなとお別れをする。Chris がBroncos のガイドブックをくれた。Naomi にく彼の religion だという大事なものだだったのに。Maya は手紙をくれた。家族みんなからのメッセージがあり、本当に嬉しかった。こちらこそ幸せな2週間をありがとう。またね。



The Colorado Study Tour 2015



July 31~ August 14

Michiko Onodera

2015.7.31(Fri.)Host Family 宅へ

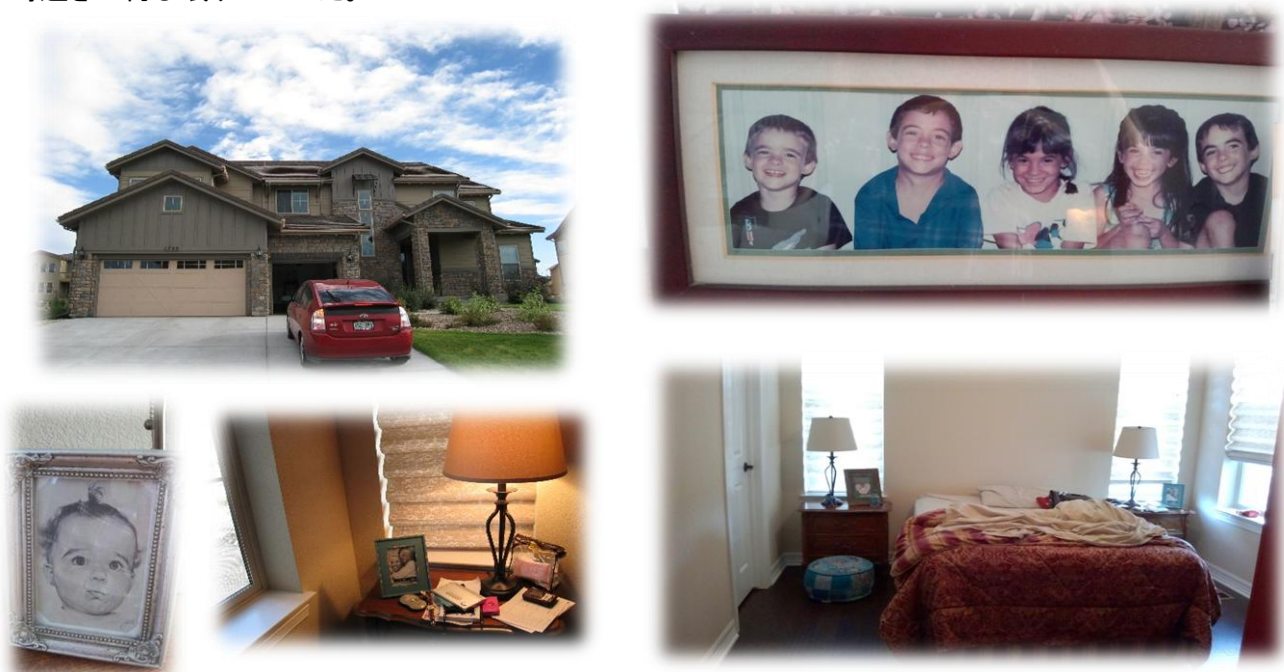
Narita→Denver 出発が遅れたため12:45着の予定が1時間半遅れ

突如として荒野に出現した巨大なデンバー空港。整然と並んだ機体の尾翼にはうさぎやラッコがプリントされている。機内で熟睡をしたわけでもなく、朝早くから起こされたような状態なのに、意外と元気な自分に驚く。出国手続きのために並んだが、ほどなく順番が回ってくる。ちょっとイケメンなおにいさんが'How long will you stay~?'とちょっと笑顔で聞いてくれたり、要領が得なかった私の手を取り指紋を取る機械にあててくれたりと嬉しい旅の始まり？スーツケースを受け取り、玄関に向かう。そこを出ると、出迎えの人たちが待っていた。その中に懐かしいAlexの笑顔を見つけ、思わず手を振る。お互い駆け寄り、ハグ。英会話でお世話になっているALTのGregのmom。2年前家族と弟夫婦と来日。去年は一人で来日。佐渡旅行をするというので、案内をさせてもらったのだった。

さっそくAlexの運転で自宅へ向かう。左側が運転席とわかっていても、条件反射で助手席に向かっている自分に苦笑する。車中、いろいろ、いろいろ話す。部分的にわからなくても会話は成立している？途中gas stationへ。何にもないただっ広い平原の中を街へと向かう。同じような大きな家が建ち並ぶBroomfieldの新興住宅地。同じ建築会社が建てているらしい。果たして家の中はというと、リビングと言いたいところだが、1階は吹き抜けの天井が尋常でなく高い。もはや体育館。

Nickが迎えてくれた。穏やかで優しいおにいちゃん。3人兄弟の小さい頃の肖像画がマントルピースの上に飾ってあった。小さい頃の写真もかわいい。全ての部屋を案内してもらう。私が使わせてもらう部屋は1階のゲストルーム。部屋の真ん中にベッド、両脇にアンティークな小さいチェスト。その上には、ライト。壁面には収納できるポップな赤い棚。シーリングライトとファン、たくさんのハンガーとタオルがおいてあるウォークインクローゼット。ホテル並みのバスルーム。ただ、どれもこれも高くて、小さい私は背伸びが必要。

ディナーはステーキ。ど〜んと大きなお肉はpatioのバーベキューマシーンでPhilが焼いてくれる。そして、PhilとAlexが仲良く食事の支度。帰り道、農家から買ってきたコーンとピンク色の皮がかわいらしいレッドポテト。どちらもボイルして食卓へ。テレビルームの一面のダイニングルームで夕食。ステーキにはステーキソースとマスタード。コーンにはバターと塩で。ほうれん草とグreekチーズのサラダもおいしかった。食事が終わっても外は明るい。日が沈むのは8時過ぎという。後片付け後は、リラックスタイム。話は弾み、9時半頃部屋に戻って何やらかにやらすませて、11時就寝。夜中の2時に目が覚め、それから1時間眠れず。3時過ぎに再び眠りについた。



2015.8.1(Sat.) ロッキー山脈(イサベル湖)へ

ついに8月！という感覚もなく、今日から8月が始まる。

Phil(host father)の焼いてくれたパンケーキの柔らかさに感激しながら、朝食を取る。

Alex(host mother)が待ち合わせ場所まで送ってくれる。ところが、待ち合わせ場所が違っていらしく、いくら待っても来ない。結局、たかさんに連絡し、絵菜さんのhost familyのお宅へ。そこで、みんなと合流し、やっと出発。Brainard Lakeに近づくにつれて車が渋滞。遅い出発に加え、渋滞で思いの外時間がかかってしまった。パーキングに車を置いていよいよハイキング。抜けるように青い空、すくっと伸びたlodgepole pine treeが連なり、山の岩肌が迫ってくる。ポプラに似たaspenの葉が風にちらちらとはためいているのに心引かれる。



不安を抱えて出発した私は、やはり最初の勾配で息が上がる。様子を見ながら少し進むと慣れたようにも思えたが、やっと半分の行程。到着した次の日のハイキング。無理をしないことにし、一人引き返すことにした。たかさんから、帰りの道の指南を受けて帰る。途中、ブルドッグを2匹連れたお姉さんと会い、話しかけてみた。Colorado在住で週末に来ているとか。友人から犬の世話を頼まれて来ていることがわかった。その後、年老いた一人の男性と会い、話しかけてみる。若いときに日本に行ったことがあるということだった。



Brainard lakeまで50分ほどかかった。湖が見渡せる場所の石の上に座り、Alexが用意してくれたpeanut butterとstrawberry jamのサンドイッチを一人ほおばる。たつぷりと塗ってあるので、その濃厚な味が本当においしい。

みんなが帰ってくるまで、湖のほとりで、ぼんやりと周囲を眺めながら時を過ごす。湖の中に入って釣りを楽しむ人、家族で水遊び、ボートに乗って湖にこぎ出す人。ゆったりと楽しんでいる。

ハイキングのみんな戻ってきたのは、4時半にもなろうという頃。疲労をしょってきての下山。もちろん充実感も漂わせながら…。今年のイサベル湖は極端に水が引いていたとか。



2015.8.2(Sun.) Sister Cities picnic (Berkley Park)

コロラド州日系人会イベントに参加。

きのうの夜、いつのまにか寝てしまう。途中、何度か目が覚めたようにも思うが、結局起きたのは、6:47と遅めの起床。

10時までにAlexとイベント開催の公園へ行く。醤油味と味噌味の芋煮を作るというので、材料や道具が既に準備されていた。たかさんと中高生たちが味はどうのこうのと言いながら作っていった。できあがると、配膳がスタート。それと同時に2回目の調理がスタート。たくさんの人が芋煮を取りに来てくれた。他にも食べ物が準備されていた。

そして、私たちから花笠音頭の披露。久しぶりに踊った私は、最初、踊りにのれず…その後、ビンゴなどのお楽しみはあったが、ほどなく帰った。



picnicから帰った後は、AlexとNickとBoulderのshopping mallへ行く。Nickは新しい眼鏡を作るといので眼鏡屋で別れ、Alexとwindow shoppingをする。Alexの好きな店とか聞きながら、歩く。cropsはColoradoが発祥の地だということを聞いたので、店をのぞいてみる。お土産にいいかも。

眼鏡屋に戻ると、Nickがいない。それから大搜索が始まる。車にも戻っていない。鍵はNickが持っているので、家に帰ることもできない。Nickが立ち寄りそうな店を探してみてもいない。不安感が最高潮になったあたりでNickが戻ってきた。別の場所で検査をしていたのだという。

夜はメキシコ料理のお店へ。よく行くという「マルガリータ」へ。どの料理がおいしいのかわからないので、これはというものを教えてもらう。エビが入っていてライムの味がきいているという「セビーチャ」を頼んだ。

小さく刻まれたエビや野菜。酸味が爽やかでおいしかったが、野菜好きの私でも、あまりの量に付け合わせのサラダは残してしまった。

夜、8時半過ぎに家に着き、その後board gameをしようというので、教えてもらいながら挑戦。「Ticket to Ride」というゲーム。beginner's luckかと思われる瞬間もあったが、結局負け。



2015.8.3(Mon.)Join Colorado Study Tour group at Spring Institute

今日からSpring Instituteでの英語のクラスが始まる。

朝はAlexが絵菜さんと私をInstituteまで送ってくれる。私たちに教えてくれる先生はJan。小鳥がさえずっているように少し早口で楽しく話す。

午前中は中高生と一緒にbasicな英語を学ぶ。残念ながら、中学生が一人体調を崩しお休み。Janがおやつを準備してくれたので、みんなが群がる。チップス&ディップスもおいしいんだろうけど、ブルーベリーをいただく。大きくておいしい。



お昼は、近くのPanera Bread CaféでClassic Grilled Cheeseとcoffeeを注文。注文時に名前を聞かれたので、「Mi·chi·ko」とちゃんと伝わるようにゆっくりと丁寧に言った。ところが、返ってわかりにくかったのか、いつまでたっても名前は呼ばれず。いつまでも待っている私を不審に思ったのか、店員さんに何を注文したか尋ねられる始末。結局、受け取りの用紙に書かれていた名前は「Michele」だった。自分の名前から英語の名前をつけたとき、この名前にしたことがあるが、まさに私の名前は「Michele」なのかもしれない。

午後からは、2人だけの勉強。Basicな問題なので、するすると進む。ただ、syllableの問題は微妙。間違いも多かった。

3時過ぎに終了。それから、3人で16th Streetへ。途中、この通りのみを走っている無料バスに乗った。絵菜さんが行きたいといっていた「The Tattered Cover Book Store」へ行ってみた。雰囲気のある本屋さんだった。

今日から幸さんも一緒にhomestay。AlexとPhilが迎えに来てくれて、3人で乗り込む。家に着くと、みんなでhouse tourをする。とにかく全てが大きく圧倒される。



夜は、Louisvilleの「lucky pizza」というレストランに連れて行ってもらって、gourmand pizzaをたべさせてもらった。2種類頼んでシェアしたが、mozz pizzaがとておいしくてはっとするほどだった。少し残ったので、持ち帰り、翌朝もいただいた。そのお店の隣にアイスクリームのおいしいお店があり、行列に並んで食べた。あまり多くは食べられないと思ってtiny sizeを頼んだが、あまりにtinyだった。

2015.8.4(Tue.)English class at Spring Institute

Melissa Patkos Montessori School of Denver

午前中は、まず私たちが行うミニ授業(?)の打ち合わせ。summer campとpre-schoolの子どもたちへのもの。いろいろ話し合い、歌とゲームと折り紙や日本の紹介ということにした。それが終わると、英語の勉強。

その日は、公園でfood truckが開催されるということで、午前のクラスを30分くらい早めに切り上げて公園に向かう。ざっと見て回った後、気に入った店に向かう。迷ったあげく、ハンバーガーを買うことにした。注文時にまた名前を聞かれ、「Mi·chi·ko」と言ったが、わかりづらそうだったので、Micheleにしたら、すんなりわかってもらえた。



幸さんと絵菜さんは隣のトラックで巻物風な食べ物を購入。その後、木陰でランチ。ハンバーガーの肉がジューシーでおいしい。喉が渴いたので、ベトナムコーヒーを購入。給食のミルメークに似ておいしい。Sweet Cowのice creamもあったので、strawberry味を買ったが、これもおいしかった。



lunchを楽しみ、ゆっくり戻る。午後からは、ことばの習得についてMontessori SchoolのMelissa先生から聞く。いろいろな方法を教えてもらった。小柄できれいで、明るくフレンドリーでほんとに素敵な先生。Early language skillsを教材を用いながら、私たちを子どもに見立て体験を通して教えてもらった。例えば、語彙を増やすために、10枚の仲間の絵カードを用いて名称を言ったり、その中から2枚のカードを用いてカードを移動しながら名称を覚えさせていくもの。また、子音の発音を文字と対応させて教えるものなど、興味深い内容だった。

途中休憩を取ったので、予定の4:30を少し過ぎてしまった。

夜は、Philの作ってくれたトマトパスタ。チリを聞かせたスパイシーな味で、大きなソーセージが入っていた。食後は、これからのフリーな時間の予定を相談した。Alexは私たちの希望を最大限に生かしながら、素敵な予定を組んでくれた。なんだかわくわくする。



2015.8.5(Wed.)Japanese Consulate General of Japan

English Class at Spring Institute

午前中の日本総領事館訪問までの時間に、The Capitol見学をすることにした。

外から見ても中心の高い金色のドームが立派だが中の造りも豪華で荘厳だった。コロラド国会議事堂はワシントンDCの国の国会議事堂の基本的なデザインに似ているとか。州の国会議事堂はコロラド州政府の中心で上院、下院、州の委員が、政治を行っているとのこと。



ここ何年かの議員の写真が飾られていたが、歴代の大統領の肖像画も掲げられていて、アメリカの歴史を垣間見たような気がした。階段の手すりの丸い玉が実際使用されていた大砲の弾だと知って驚く。

最上階には、コロラド州についての展示がなされ、州の花や鳥、野生動物のことなどに興味を引かれた。



そして総領事館へ。私たちを乗せてくれたたかさんがいつになく緊張感をともなっていた。応接室に通され、総領事の伊藤さんを囲んで、総領事館の実務について説明を聞いたり質問に答えてもらったり。この夏、コロラドから50名のALTが日本に来るとか。13階の広い窓からの眺めがすばらしかった。



lunchは、たかさんおすすめの1階のサンドイッチ。ハーフサイズでローストビーフのサンドイッチにした。それを持って、領事館前の公園で食べる。そこに野菜や果物を1袋10ドルで売っているお店があり、桃やサクランボがおいしそうだったので、買ってみんなにシェアする。

午後は、中高生と英語の勉強。

家に帰り、みんなで翌日のサマーキャンプの準備をする。

夕方、車2台に分かれAdam's County Fairへ。家畜がたくさん陳列されている。二日後、品評会が予定されているらしく手入れに余念がない。うさぎ、にわとり、七面鳥、やぎ、羊、牛、豚...うさぎの種類の多さにびっくり。ベルベットのような手触りのうさぎがかわいらしかった。

いつまでも明るい外の明るさに時間を忘れる。豚舎を訪れたのは8時をまわった頃。もう豚は眠りについていて。その寝姿のかわいらしいこと。そばにあった巨大な遊園地が移動式とは！



2015.8.6(Thu.)JoAnne's summer camp

English Class at Spring Institute

8:15出発。Summer campに参加するため、いつもと違う場所へ向かう。

JoAnneのYouth in Actionの基地となっている教会に向かう。一度道を間違えて後戻り。GPSでやっとたどりつく。入り口でJanがお出迎え。中に入ると、ホールで小さい子たちが何やら裁縫をしている。6〜7才の小さい子が針を使って縫い物をしている。ミシンをかけている子もいる。高校生らしい女の子が間違って縫ったところをほどこいたり、作り方を教えてあげたりしている。きりりとしたお姉さんらしさが実にかっこいい。みんなとても自立している印象を受けた。たくさんの子が「寿司ドッグ」を作っていた。何かというと、四角い箱の形の一面に顔、てっぺんに寿司ネタをのせた犬のぬいぐるみのようなもの。初めて見る物だった。



10:30、自己紹介から始まり、our classとして歌「しあわせなら手をたたこう」、日本への質問コーナー、名前の一音を漢字で表し、墨で半紙に書いてあげると言うパフォーマンスもした。喜んでもらえたかな。



lunchは近くのsmoothieがおいしいというお店へ。strawberryのsmoothieとblueberryのdanishを注文。素材を生かした味がおいしい。サンプラザ中野くん に似たオーナーとその奥さんがしているお店らしい。スイスの国旗が飾ってあったので、出身を聞いてみた。奥さんがスイス出身でだんなさんはポーランドとのこと。そういえば、二人ともヨーロッパの雰囲気 が漂っていた。そのうち、小さな女の子が顔を見せた。3才で、来週誕生日を迎えるとか。名前はドミニク。シャイな女の子だった。

食後は散歩。そこはhighlandで、裕福な人たちが住む場所らしい。レストランが多く立ち並んでいた。しばらく歩いたところでbook storeに行きついた。中に入って、「Zen Cat」という本を買う。

JanとInstituteに帰る。そして、英語の勉強。カードの質問に答え合うのも楽しかった。より会話的な学習。

授業が終わりに近づこうとしたとき、突然Frankとmomが現れた。実に7年ぶりの再会。なんだかやせて、声まで少しハスキー担ったように感じた。

でも、本当に嬉しい再会だった。Momも年を重ねたという印象は否めなかったが、変わらぬ物静かで気品漂う素敵なmomだった。目の覚めるような鮮やかなブルーのワンピースがスレンダーな体によく似合っている。それから、歩いて図書館に行き、カフェでコーヒーを飲みながら、話をした。本当に夢のよう。



*Frank... 2006夏〜2008夏まで旧朝日村のALT

2015.8.7(Fri.)Join Colorado Study Tour group at Spring Institute English Class at Spring Institute

午前中は中高生たちと英語の授業。もともと教会であるこの施設にはsanctuaryがあり、今日はいれるというので、勉強前に入らせてもらう。立派なパイプオルガンを備えた大聖堂。内山君が前に立つと、司祭のようだ。ピアノもあったので、ピアノを習っているという真由子ちゃんが少し弾いてみる。続いて、ピアノを習ったことがないという響くんが「旅立ちの日に」を弾くと、胸がいっぱいになり、みんなで大合唱。大聖堂で歌えるなんてすごすぎる。歌いながら、感動する。



でも、授業が始まるので、そこでストップ。Native Americanについてその血を引くGayeさんが様々な道具を見せながら話をしてくれた。伝統を大事にして生活をしていることに尊いものを感じる。

そして、中高生たちは今日でInstituteでの英語の勉強が終わりなので、修了式を行い、一人一人に修了証が手渡された。その後、Jan先生手作りのスパークリングジュースで乾杯！

lunchはまた、ハイジの店で。サンドイッチを購入。午後は英語の授業。何度目かの日程確認。prepositionの練習問題をした後で、木のrodを使って場所を表すことばの練習。私には難しい課題だった。

3:15に迎えをもらい、家に寄って簡単なハイキングの用意をして、Chataquaへ。BoulderにあるFlat Ironsの山に向かった。登るにつれて、Boulderの街が眼下に広がる。コロラド州立大学の茶色の建物群が広大だ。1時間くらいのハイキングはちょうどいい。初日のハイキングとは比べものにならないほど気持ちいい。



その後、Pearl Street Mallへ。歩行者国のような賑やかな場所。Alexが好きなflip-flapの店に入ったりしながら、しばらくのんびりと歩く。そしてCheesecake Factoryというお店に入った。スイーツのお店ではなく、レストラン。ステーキがおいしいというので、注文。それから、こちらに来て初めてのビールも。Blue beerというとてもフルーティーなビールだった。最後に、みんなでシェアしてチーズケーキをいただいた。ちょっと塩味がして濃厚。帰りすがら、street performanceを見る。16才の男子高校生のマジックが鮮やかだった。

2015.8.8(Sat.)Host Family Day

Rocky Mountain National Parkへ

Estes Parkへ向かう途中で、King SoopersとBoulderのfarmer's marketに立ち寄る。駐車場で車を降り、歩く。川で遊ぶ家族連れや公園でくつろぐ家族連れとみな思い思いの休日を楽しんでいるように見える。Marketにも人の往来があり、野菜だけではなくスイーツなども目を引く。lunchに食べるものということでマフィンを買う。たまたまその店はgluten freeのものだった。

そして、一路目的地へ。両側を山に囲まれるように車は進んでいく。1時間半くらいだろうか。Rocky Mountain National Park入り口に到着。今年は設立100周年なのだそう。車はさらに山道を進んでいく。景色のいいところで車を降りて眺める。少し離れたところにchipmunkを発見。観光客に日常的にえさをもらっているせいかよってくる。実際えさを与えている人もいた。近づいてきて、手をついていた私の手の甲の上を軽い足取りでchipmunkもいた。かわいい！また、pikaというハムスターのような生き物も同時に見ることができた。そういえば、その前に道路脇で、鹿を2頭見た。帰りにはelkも見ることができた。



Beaver Meadows Visitor Centerに立ち寄った後映画「シャイニング」のロケ地となったStanley Hotelを横目に見ながら、さらに登る。そして、Alpine Visitor Centerで降りる。お土産売り場があったのでのぞく。予想外にたくさんのお土産があったので、買ってみた。その後、ちょっと坂を登って眺めがいい場所へ。centerの標高が3595mと富士山クラスの標高だったので、さすがに経験したことのない呼吸の辛さを感じる。時々深い息をしないと、苦しさを感じるのだ。でも、高みにたどり着いた感激は何にもかえがたかった。

山から下りる途中で立ち寄った場所に公園のレンジャーをしているお姉さんがmountain lionの毛皮を見せていたので、毛皮を持って写真を撮ってもらった。近年はほとんど見られないそうだ。それから、小さな睡蓮(yellow lily)の咲くnymph lakeへ。湖を眺めていたら、小さな女の子が小石を握りしめ、湖面に投げている。拾っては投げることを繰り返している。そういうことが楽しい年頃なんだなと思い、小さな木ぎれを拾って渡すと、すぐさま投げる。後で、お父さんが笑顔で「Thank you」と声をかけてくれた。優しいお父さん！



2015.8.9(Sun.)Host Family Day

Friscoへ Riding a Bike (path bike)

綾子さんも加わり、6人でのバイク乗りに挑戦！家族3人のバイクを Philの車の後部に積み、lunchや飲み物や様々な物を積み込んで、2台の車に乗り込んで出発。

Denverの西へ1時間半。そこは大きな湖の美しい町Frisco。9軒あるというレンタルサイクル店から1軒選び入る。ここでも全てAlexが持ってくれた。なんだかとてもすまない気持ち。小さめのバイクのサドルをさらに低めてもらい、2年ぶりくらいに乗る。乗れる！いい感じでスタートを切ることができた。湖の周囲のサイクリングロードを6人がツーリング。私は後ろから2人目。最後尾はAlex。アップ&ダウンを繰り返しながら、なんとかついて行く。堤防のようなところで視界が広がったものだから、対岸に目をやった瞬間、バイクの前輪を舗装道路から外し、コントロール不能に。なすすべもなく倒れてしまった。その結果、右膝を擦りむきズボンに穴が空くという散々な状態に。それでも、何事もなかったかのようにバイクを走らせた。そして、Lunchはテーブルとベンチのある見晴らしのいい場所で。買ってきたパンで、PhilとAlexがサンドイッチを作ってくれた。ローストビーフとチーズとトマトを挟んでマスタードを塗ったサンドイッチは本当においしかった。



おなががいっぱいになったところで出発。Nickから少しサドルを上げてもらって体重を掛けて踏み込めるようにした。しかし、午後からが地獄だった。上り坂の多いこと。湖に沿った道が閉鎖されていたので、仕方なく山を越えることになったからだ。だらだらと上り坂が続く。ギアを低めることによって、少し楽になるが、疲労感からバイクを降りて引いて進む場面もあった。I'm dying！と思わず口について出る。そして、ついに下り坂が訪れる。しかし、それは、ほどなく長く続く車道に通じる道だった。時折、背後から車が追い抜いていく。右側通行に慣れていない身にとっ

て、左側からの追い越しはかなり怖い。ただ、車が来ないときは、スキーのダウンヒルの爽快感を思う存分味わうことができた。でも、一歩間違えば…危険と隣り合わせだったかもしれない。そんな中を駆け下りることができたことが何よりも嬉しく、こんな私でもできるんだという大きな自信となった。

それからは「Finish！」ということばに最後の力を振り絞りペダルをこいだ。でも、予想外にゴールは遠くちょっと騙されたかな？

そして、ついにFinish！少しばかりの腿の筋肉痛が残ったものの意外と元気。Riding a bike high？

2015.8.10(Mon.)English Class at Spring Institute

Teacher Resources store

Linda's School classroom (Place Bridge)

Phil に送ってもらって出発。

今日は、中高生が帰国するので、幸さんは昨日の夜からたかさん宅へ。それで、9時からの英語の勉強は、絵菜さんと私の二人。今日はstressの勉強。

10時半頃、幸さんが到着。そこで、Janが私たちを教材屋さんへ連れて行ってくれた。教材として使えるようなものがずらりと並んでいた。私は「ことばの教室」で使えるようなゲームを見て、これはと思うものもあったのだが、Janにおすすめを聞いてみたときにこれはというものが出来なかった。結局買わないままに終わってしまった。ただ、シールやしおりのお土産を買うことができた。



lunchはJanおすすめの「Whole Store」で。一見スーパーのようだが、フードコートのようなコーナーがあり、好きなものを好きなだけ買うことができるのだ。私はまず、大粒の見事な赤いラズベリーとアーモンドミルクとフードコートで好きな総菜をパックに入れて買って見た。それをスーパー内のテーブルで食べた。お肉が柔らかく煮込んであっておいしい。大満足。

午後は、Linda's Schoolへ。去年も説明をしてくれたというLinda先生から説明を受ける。今は夏休み中なので、Linda先生が担任している1年生の教室も少し雑然としている。教室で少し説明を受けた後、校内を案内してもらう。この学校は全校児童千人あまりの大きな学校。地域的に移民を多く受け入れているという。昨年度は63カ国からの児童を受け入れたという。そのため各学年にnewcomer classがあるという。大勢の児童が遠いところからも通学するため21台のスクールバスが走っているという。また、施設に目を向けると、校内にdental clinicがあり、週一回来てくれるという。校長先生の配慮でこのようなサービスを提供しているのだそう。



JanにBotanic Gardenまで送ってもらい、大きな植物園を楽しむ。15年に一度開花するというstinky flowerが開花を待っている。巨大なつぼみは4mを超えていた。後1週間ほどで見事な赤い花を咲かせるという。



2015.8.11(Tue.)Children's Museum /Nature and Science Museum English Class at Spring Institute

Children's Museumに送ってもらう。

本当は子どもを同伴していない大人は入ることができないのだそうだが、去年も事情を話し入ることができたそうなので、今年もそれで入ることができた。

元気のいいお姉さんが説明をしながら、案内してくれた。まず訪れたところは消防士を体験できるコーナー。まさにキッズニア。消防士の服に身を包んでちびっこ消防士が消防自動車の運転席に座って満足げ。他にも、獣医さんやマーケットの店員さん体験ができるコーナー。シャボン玉を作ったり、アートを体験した来年はさらに施設が充実するとのことで、今建築中だった。



それから、lunchは「Hard Rock Café」で。Buchettaを注文。ガーリックトーストの上に小さな角切りトマトがのっかってスパイシー。みんなでシェアしていただく。



次は、Nature and Science Museumへ。

Janのはからいで、2人だけただで入場することができるという。絵菜さんと私と2人で入る。最初は、宇宙のコーナー。のんびりと見ていたら、あっという間に時間が過ぎることがわかり、それから別れて見ることにする。私は野生動物のコーナーへ。そこには、北アメリカに生息する生き物が剥製で展示されていた。実際に目にした鹿やエルクが蘇る。しかし、それだけではなく多くの野生動物たち。とても興味深く見る事ができた。それから、Native Americanの展示コーナーへ。独特の文化を持つ彼らの生活を垣間見たように思う。

もっともっと時間があればという思いだったが、時間が12時をまわったので、それまでにして、売店でお土産物を買った。

午後は、英語の勉強。慣用句など。ゆっくりとしたランチタイムだったので、3時からのスタートだった。

終わって外に出たら、生憎の雨。dinnerをFrankと一緒にということだったので、Tattered Cover Book Storeで待ち合わせ。そこから歩いてmomおすすめのフランスレストラン「Bistro VENDOME」へ。通りからちょっと入っただけでまるで別世界。どこかヨーロッパのどこかに迷い込んだような落ち着いた雰囲気漂わす空間だった。サーモンとアスパラガス、サラダを幸さんとシェアして、赤ワインをいただき、ほんとにいい気分。バスに乗って、Wagon Ride Parkへ。そこで、Philのお迎えをもらったのだった。

2015.8.12(Wed.)Pre-school observation (Arvada)

English Class at Spring Institute

最終日。

PhilがArvadaのPre-schoolまで送ってくれる。

Alexは明日の準備のためか朝7時ころには家を出たらしい。

Pre-schoolとは、kindergartenのようなものだったことに今さらのように気づく。Lindaさんの保育園は50数名が通う園。10ヶ月までの赤ちゃんの部屋、1～2才、3～4才、5～6才と別れ、始めに入った5～6才の子どもたちは今まさに色とりどりのシェービングクリームを使って手で混ぜながら色遊び中。いろいろな色を作り出す中で、最終的には一つの色に完成。

赤ちゃんたちの部屋に入ったとき、座っていた赤ちゃんたちが目をまん丸にしていっせいに私たちを見た様がとてもかわいらしい。それから、3～4才の子どもたちの自由遊びに入って遊ぶ。時々話がわからなくなるが、そこはわかった振りをして遊ぶ。また、別のクラスでは手遊びをしながら、歌ったり、図形の言い方を取り上げたり。

最後は、外遊びにつきあう。フラフープをしたりぶらんこを押してあげたり。一人の女の子がAre you a new teacher?と聞いてくる。一体一緒にいるこの大人は誰だろうと思ったんだろうな。



lunchは前々から気になっていたフォーの店。少し早い時間に着いたので、混み合う前に入店できてラッキー。エビ入りのフォーを注文したが、最初に山盛りのもやしや唐辛子が出てきたのでびっくり。でもスープも麺もおいしかった。食後に再びベトナムコーヒーを飲んだ。

午後は英語の文法問題集や勉強のためのアプリなどを紹介してもらった。そして、最後の勉強をした後で、終了証をいただいた。Honey dewとsparkring juiceで乾杯！ついに完結！

4:30にAlexの迎えをもらい、お土産を買いに連れて行ってもらう。Boulderでcropsを買い、King Soopersでお菓子を買う。かなり疲れて8時頃帰宅。それから、それまでゲームに興じていたPhilがパンケーキを作ってくれた。私も焼くのを手伝った。食べて話をしているうちに疲れが少し引いた。Alexが翌日朝早く出るというので、別れのハグをして部屋に戻った。

2015.8.13(Thu.) Return flight (Denver→Narita) 12:40発

いよいよ帰国。Denver発12:40のUA139

今日はAlexが6時半、Philも7時半前には仕事に出てしまうので、あわただしい。Philとお別れしていなかったの、リビングに行った。彼の朝食は、前の晩のパンケーキ1枚。お礼を言いながらハグして別れた。ほどなくNickが降りてきて、雑談の後、朝食。パッキングをすませてもまだ時間があつたので、Nickが作ったというウェブサイトを見せてもらった。来年、父方のひいひいおばあちゃんを核とする家族の集まりがあるようだ。

そして、9時45分、私たちはちょっとの間住み慣れた家を後にした。Nickが車で空港まで送ってくれ、空港の入り口でハグして別れた。

出会った人々、取り巻くColoradoの大自然……。過ごした時間は、夢のように過ぎたが、決して忘れることのできないものとなった。



● 参加者氏名

名 前	所 属 学 校
日向 絵菜	鶴岡市立朝暘第六小学校
小野寺 美智子	鶴岡市立朝暘第二小学校

(敬称略)

● 同行者氏名

名 前	所 属
佐藤 幸	(公財) 出羽庄内国際交流財団

● 同行者より

今年が第2回目となった英語教育を学ぶコロラドスタディツアー。以前より国際村のツアー参加者が英語指導を受けている、英語教育の専門機関 Spring Institute (スプリング・インスティテュート) の協力を得、英語の習得と、英語教育を含むアメリカの教育の現場を知ることの特化したツアーを実施することができました。

今回訪問した公立小学校の一つは、全校児童が約1000人、63の違った言語を母語とする様々な国や地域からアメリカにきた子どもたちが通っている学校でした。私達が訪問したのはちょうど新学期前のオリエンテーションの日で、その会場ではいろいろな服装、肌の色、体型をした親子たちが、様々な言語を使って新しい学期のための登録などをしていました。各テーブルではそれぞれの言語を話す通訳がいて、先生方やスタッフが児童と保護者を細かくサポートしていました。「人種のサラダボウル」と言われるアメリカの現状を目の当たりにしました。

参加者は全泊ホームステイをしましたが、一家庭は、現在鶴岡市内の小中学校で英語指導助手をしているグレッグ・ソティロスさんのご両親のお宅、もう一家庭は2013年と2015年6月に鶴岡を訪れているグループ「ユース・イン・アクション」のメンバー、エヴァンさんのお宅に滞在させていただきました。鶴岡に縁のある2つの家庭で大変温かく受け入れていただき、家庭での生活も大変素晴らしい体験となりました。今後もみなさんとの交流は続いていくことと思います。

現地で私たちに学校訪問や教授法の紹介など、貴重な機会をくださった地元学校などの先生方、またホームステイを含む生活のすべての面にわたってプログラムを企画・実施してくださったスプリング・インスティテュートのジャン・ハンフリー先生に、心から感謝申し上げます。

(公財) 出羽庄内国際交流財団 佐藤 幸